

木住協 30周年事業 木造循環型住宅供給体制整備第2回WG 議事録

日 時：平成26年7月14日（月）17：00～18：50

場 所：内野設計万代町事務所

参加者：久保、多田（住宅課）、浜本（県木連）、後藤（木の家づくり協会）、山田（徳島県木の家地域協議会）、和田（森林づくり機構）高田、内野（建築士会）

－キックオフで終わらないために－

○大工育成塾

- ・ 育成費 一年目5万円、二年目8万円、三年目10万円。月2回、金土に大阪で座学受講。大工道具や材料を持って、バスに乗って通う。

○山側の業者と備蓄の話をしてみる（山田）

- ・ 6/20 笠松社長と面談。6/26 もくさん意見交換会に参加。
 - ・ 新しい道が通って廃道となった道路の擁壁に片屋根をかければ備蓄ヤードができる。
 - ・ 200ha 分の山を拓いて、花畑にする計画がある。2020 東京五輪目標。観光資源化。
 - ・ 上勝で採れたものは上勝で使うことを原則に考えている。
 - ・ 山の作業は7、8000 円/日。一ヶ月で15、6万円。結婚もできない。
 - ・ 町の基金をうまく使いたい。
- （意見交換）
- ・ 花畑にコテージなど？単体で終わらない、前後につながる企画が重要では。
 - ・ 上勝は湿度が高く乾きにくい。高温セットしてから自然乾燥すれば問題は減る。
 - ・ 雨ざらし厳禁。セットが戻ってしまう。
 - ・ バイオマスを熱源にセットして備蓄が始められたら。

○木材市場と備蓄の話をしてみる（浜本）

- ・ 芯持ち材は必ず狂うためオーバーサイズで粗挽きする。プレカット側はオーバーサイズの天乾材をきらう傾向がある。加工費は誰が見るのか？オーバーサイズと再加工、どちらの材積で値段を請求するのか？
- ・ 期間が長くなり、割れ等で削って要求等級にならなかつたら誰がそのリスクを負う？
- ・ 備蓄する数量はどの規模か？
- ・ 発注者の要求（納期・企画・数量）に応じてする仕事ではないところが恐ろしい。在庫しても売れなかった場合泣き寝入りになるのでは。
- ・ 仕入れ時と販売時で市況は変動している。災害用備蓄とはいえ、高く買ってくれるほうに売るのが通常。災害用だから安定した供給価格を求められるのであれば、過去の備蓄機構のように「買取→毎年更新」と、製品の所有を明確にしてほしい。備蓄機構では、「預け賃」と「管理料」を含んで買い取り価格は高めであった。
- ・ 行政が材料を確保する仕組みが必要。徳島県危機管理部も議論に入るべき。発注者を明確に、値段と数量・規格を明確にし、必ず使われる仕組みとしてほしい。
- ・ 駐在所、四阿、トイレなど、用材の規格化が容易そうな建築を通してまず事例作りを。（意見交換）
- ・ このように、具体的な問題点がでてくれば解決方法も検討できる。前向きな話ばかりだととらえるべき。
- ・ 買い取ってくれたらありがたいが、高く買ってくれないと。
- ・ いい乾燥をすればいいものになるのは承知しているが、売るためには高温乾燥で早く出すことになってしまう。致し方ない。

